# 遠大な夢を描いた「肥筑軌道」

筑後川下流域、福岡県と佐賀県の県境。

筑後川より田手川の水運を利用した、川港町﨑村。神埼郡の物産集積地として発展してきた。

明治の末期、地方都市は交通機関の発達が重要になってきた。大正3年神戸の鈴木商店の後援を得て「肥筑軌道㈱」を設立。

久留米～佐賀～唐津を結ぶ、遠大な計画が動き出した。

大正12年高尾～﨑村間（7㎞）が開通した。

﨑村駅のそばには、機関車の方向を変換する転換機があった。﨑村から佐賀の方向へ進むと小鹿の若宮神社まで直進、小鹿駅の前には、お宮の杉林が茂っていた。小鹿の次は蒲田津駅だ。途中の城原川の中に橋脚の基礎跡が残る。クリークの多い平野を進むと、珍しく両岸には橋台が見える。次は小松駅。小松を過ぎると中地江川だ。しばらく進むと白壁の大きな倉が見えてくる。江戸時代の殿様の御用倉庫だ。さらに左手には、蓮池公園が見え、路線の中で唯一離合できる駅だ。次は犬尾駅。佐賀江川沿い犬尾橋水門手前に駅があり、大きな榎木が茂っていた。佐賀はもう間近、窓からは街道沿いの松の並木が見え、巨瀬川を渡ると、終点高尾駅だ。﨑村から東側（久留米方面）は、筑後川北岸を通って向かうはずだったが、資金・経営難で実現できなかった。（大宅和弘）

高尾駅前はコミュニティ消防センター

田手川に残る未成線の土に埋もれた橋脚

両岸に残る橋台

クリークの護岸に残る橋台

犬尾橋水門


干満差の激しい中地江川に残る橋脚


天満神社に残る軌道の橋桁


城原川に残る橋脚基礎跡